別紙

企画展「弥生人といきもの 2023　魚をとろう！」主な展示品

写真提供：京都大学総合博物館

1　絵画土器（船をこぐ人）【国指定重要文化財】

唐古・鍵遺跡（奈良県磯城郡田原本町）
弥生時代中期　京都大学総合博物館蔵

唐古・鍵遺跡からは日本全国で確認されている弥生時代の絵画土器の約半数が出土している。この壺は中でも名品として知られ、船に乗りオールで左方向へこぐ人々と艫にとまる鳥が描かれている。左端の舳先の人物のオール近くからは３本の放射状の線が延びており、投網の様子とする説や、幡を捧げ神を迎える姿とする説などがある。

写真提供：
島根県埋蔵文化財調査センター

2　結合式釣針

西川津遺跡（島根県松江市）
弥生時代前期　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター蔵

長さ 14cm、幅９cm もある日本最大級の結合式釣針。おそらくサメやマグロなどの大型魚専用のもの。結合式釣針は軸と針を別材で作ることで大型化や破損時の補修を容易にした。この釣針は軸が鹿角、針部がイノシシの牙で作られ、結合部には乳白色の接着剤も残る。元来は縄文時代に西北九州の漁民だけが使っていた特殊なタイプであり、稲作技術と共に山陰に伝わったと考えられている。

写真提供：田原本町教育委員会

3　絵画土器（魚）【国指定重要文化財】

唐古・鍵遺跡（奈良県磯城郡田原本町）
弥生時代中期　田原本町教育委員会蔵

左向きの魚が描かれた絵画土器。絵画土器は祭祀に使われた特別な土器と考えられており、これは壺の胴部の破片とみられる。魚は胴体に斜線が充填され、背びれ、胸びれ、尾びれが表現されている。絵画銅鐸に、よく似た形の魚がサギらしき鳥にくわえられている様子が描かれている例があり、おそらくフナなどの淡水魚を描いたものと思われる。

4　イイダコ壺

池上曽根遺跡（大阪府和泉市・泉大津市）
弥生時代中期　大阪府立弥生文化博物館蔵

小型のタコであるイイダコ用のタコ壺。弥生時代中期の巨大集落である池上曽根遺跡は、当時は大阪湾から 2km ほどの距離にあった。イイダコ壺は 2,000 点以上出土しており、当該遺跡出土の漁具の中でも数が突出している。イイダコとは、産卵直前のメスが抱える卵が、米飯がぎっしり詰まったように見えるためについた名とされ、弥生時代では稲の豊作を願う祭祀に欠かせなかったとも考えられている。

5　鉄製釣針

長う子遺跡（広島県広島市）
弥生時代後期　広島市蔵

現代の釣針ともほとんど形が変わらない、弥生時代の鉄製釣針。鋭い針先には丁寧にカエシが作られ、針にかかった魚を逃がしづらく、また、釣りエサも外れにくくなっている。釣針に糸を結びつける部分であるチモトには切込みが入っており、こちらも釣糸を外れにくくする工夫がなされている。弥生時代の鉄製品は工具類が多く、釣針の出土点数は極めて少ない。この釣針はほぼ欠損もなく、貴重な資料である。